

特別企画



多文化の街・大久保ツアー —歴史的変遷と言語景観をたどる旅—

- **講師**：善元幸夫さん（日韓合同授業研究会・目白大学非常勤講師）
- **日時**：2023年11月11日（土）10:00～12:00
- **会場**：新大久保周辺

大久保地域は、2018年の統計では約4人に1人が外国籍という多文化の街です（申 2019）。現在もコリアン料理、化粧品や芸能関係の店が多く軒を連ねていますが、他にも中国、ネパール、ムスリム系など、多様な地域の店が混在しており、韓国通り、イスラム通り、中国通り、アジアの通りなど棲み分けが進んでいます（善元 2022）。このように多様な出身地や言語、生活習慣などを共有する人々のコミュニティが共存する大久保という空間はどのような歴史的変遷を遂げ、現在どのような空間であるのでしょうか。

本企画では、「歴史」と「言語景観」という2つのアプローチから街を体感・体験するということを行います。「歴史」という観点では、街歩きの案内人・講師として、2007年より大久保の町に関わってこられた元大久保小学校教諭の善元幸夫氏を招聘し、街の変遷、現在の街の様子について歩きながらお話しいたします。

また、「言語景観」という観点では、参加者の方に町を歩きながら、言語景観で気付きのあったものを写真に撮ったり、音声を録音するなどをしていただき、ツアー終了後、撮影、録音したものを padlet に投稿して共有し、個々で振り返りをしていただきます。

ツアーの訪問地は、大久保小学校（外観のみ）、コリアタウン（韓国系）、皆中稲荷神社、イスラム通り（西アジア、ミャンマー、ネパール、バングラデシュなど）、国際通り（タイ、ベトナム、中国、台湾）です。終了後には懇親会も予定しています。

なお、参加の際の保険に関しましては、参加者ご自身でご対応いただけますようお願い申し上げます。

参考文献

申恵媛（2019）「『開かれた』地域社会の重層性——エスニックな観光地化する『新大久保』の事例から」

『アメリカ太平洋研究』19、pp.37-48

善元幸夫（2022）「反差別・命・人権 多文化共生はどこまで可能か」『最終部落解放』87

参加費：会員 1000円、非会員 2,500円（定員22名）

※恐れ入りますが、定員に達し次第、お申し込みを締め切らせていただきます。

※お申し込みの際、懇親会（韓国料理店 1,500円程度を予定）参加の可否をお知らせください。

お申込みは[こちら](#)から



お問い合わせ：言語文化教育研究学会企画委員会 Email:project@alce.jp